
平成22年 第4回 対馬市議会定例会会議録(第3日)

平成22年12月9日(木曜日)

議事日程(第3号)

平成22年12月9日 午前10時00分開議

日程第1 市政一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 市政一般質問

出席議員(21名)

1番 脇本 啓喜君	2番 黒田 昭雄君
3番 小田 昭人君	4番 長 信義君
5番 山本 輝昭君	6番 松本 臚幸君
8番 齋藤 久光君	9番 堀江 政武君
10番 小宮 教義君	11番 阿比留光雄君
12番 三山 幸男君	13番 初村 久藏君
14番 糸瀬 一彦君	15番 桐谷 徹君
16番 大浦 孝司君	17番 小川 廣康君
18番 大部 初幸君	19番 兵頭 栄君
20番 中原 康博君	21番 島居 邦嗣君
22番 作元 義文君	

欠席議員(1名)

7番 阿比留梅仁君

欠 員(なし)

事務局出席職員職氏名

局長	橘 清治君	次長	梅野 泉君
参事兼課長補佐	長野 元久君	副参事兼係長	國分 幸和君

説明のため出席した者の職氏名

市長	財部 能成君
副市長	大浦 義光君
副市長	齋藤 勝行君
政策補佐官	松原 敬行君
地域再生推進本部長	永尾 榮啓君
観光物産推進本部長	本石健一郎君
総務部長	平山 秀樹君
総務課長	桐谷 雅宣君
市民生活部長	近藤 義則君
福祉保健部長	扇 照幸君
農林水産部長	比田勝尚喜君
建設部長	斉藤 正敏君
水道局長	阿比留 誠君
教育長	梅野 正博君
教育部長	大石 邦一君
美津島地域活性化センター部長	長郷 泰二君
豊玉地域活性化センター部長	中村 敏明君
峰地域活性化センター部長	大川 昭敬君
上県地域活性化センター部長	武田 延幸君
上対馬地域活性化センター部長	川本 治源君
消防長	竹中 英文君
会計管理者	糸瀬 良久君
監査委員事務局長	主藤 繁明君
農業委員会事務局長	永留 秋廣君

午前10時00分開議

○議長（作元 義文君） おはようございます。

報告します。阿比留梅仁君より欠席の届け出があっております。

ただいまから議事日程第3号により、本日の会議を開きます。

日程第1. 市政一般質問

○議長（作元 義文君） 日程第1、市政一般質問を行います。

それでは届け出順に発言を許します。16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） おはようございます。先日からの一般質問は質問者の時間が結構長い時間をとっておりました。私はその逆をやりまして、明瞭簡単に質問時間を述べたいと思います。そのかわり市長の答弁が、恐らくきのうの3倍ぐらいになると思います、時間的に。その点ひとつ、今回は市長の考え方を中心に私は勉強しようという思いでございますので、ひとつそういう覚悟で一般質問をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは通告に従いまして、市政一般について質問をいたします。

今回は、私は対馬の観光産業と将来のこの方向づけについての的を絞り、財部市長への率直な考え方について伺いたいと存じます。

まず、国内からの観光客が流入している中で、このような国内の観光の現状と、そして将来の誘致の戦略について、どのような具体策を持ってこれから、あるいは今までの取り組みをなされてきたのか、このことについて、具体的な市長の答弁を望むものでございます。

次に、何といたっても韓国の観光客、これは最近におきましては6万を超える数字が具体的に現れております。この韓国の観光客の現状の分析と、それと今後将来の誘致の戦略をどのように考えておられるのかお伺いしたいと存じます。

最後であります、私は今年10月のうちに上対馬町海栗島において、航空自衛隊第19警戒隊の記念式典の出席をした折に、そのときに上対馬の対馬観光物産協会の上対馬支部長様とお会いする機会がございまして、たまたまそのお話が上のこの経済の低迷、この中でいろいろな角度でことはしてまいりましたが、本人から言わせれば不満であると。もう少し抜本的な対策、そういうふうな市政の中で皆様が納得するようなことが、もっと大きく打ち出してほしいというようにお言葉がございまして、私はそのときに、12月の定例会の折に、財部市政の中でこのことについて、今までのこと、今後のことを含めて問いただして、共にどうしたら上の経済が浮揚するのか、このことを勉強して力になりたいという思いで今回そのことをテーマにいたしました。

で、この3点について、簡単ではございますが、私、財部市長の今までなされたことと今後望むこと、その挑戦することにつきまして、真剣に本日来まして、あなたのお話を中心に聞きまして、私なりにわずかでございますが対馬をどうするか、あるいは観光をどうするか、北の経済をどうするか、このことについてわずかな時間でございますが、この機会をひとつお借りしたいと思っております。よろしくお願いいたします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） おはようございます。大浦議員の御質問に答えたいと思います。

3点ありました。基本的に観光の誘客戦略をどうするのかということ、それから今訪れていた
だいております韓国観光客の将来の方向性といえますか、位置づけ、対馬の観光の中における位
置づけをどうしていくのかということ。それから、最後に、この北部地域における振興策につい
て私の基本的な考えをとということでございます。

私、この場でも何度か申し上げたことがございます。観光というものが、ただ単に人を呼び込
むだけでは、やはりそれはどこかが欠落した観光ではないかと。で、こちらの受け入れる側の問
題ということが大きな部分があるのではないかと。そういう中において、私は福岡事務所の位置
づけのときに、消費者である、もしくは観光客もある意味消費者と位置づけた場合、その消費者
が何を求めているのかということに対して、こちらがきちんと対応していくことをしないと、観
光というのは成り立たないということを、そういう意味において、福岡事務所の役割というのは、
向こうのほうの動向とか、率直な消費者の考え方というのを、市民の中に、もしくは観光業者の
関連する方々にフィードバックすることが大きな役割の一つだというふうなことはたびたびここ
で申し上げてきた次第です。で、そういう意味で、観光そのものをそのように私は考えておりま
す。それをきちんとしたベースができてつくり上げていくことが大事だと。そうすれば、おのず
とリピーターも増えていき、観光産業というのも生き延びていけるんだというふうに思っていま
す。で、国内のお客様、国外からのお客様、限らずに、これはその受け入れるベースをつくって
いかないといけないというふうな思いがあります。

そういう中で、実は観光物産推進本部のほうも、いろんなことを観光に関わる方々に相談をし
てる部分があるんですが、なかなか今までの考え方が変わらないことで大変事務方のほうも口惜
しい思いをしている部分があります。で、行政のほうからこういうふうな方向性でいきたいとい
うふうなことを投げかけても、動かない部分がまだまだあります。そのあたりを私どもは変えて
いってもらえる努力をこちらもしていけないといけない。で、観光に関わる方々もそういう意識
を持って変わっていただかないといけないというふうに思っています。そういう中で観光とい
うのは成り立つという思いがあります。

で、きのうもきょうもそうですが、観光案内人の方がずっとバスに乗って案内をされておりま
す。「やんこも」というグループですかね。で、きのうもお見かけしました。バスの中でずっと
案内されていました。きょうもお客さんを朝誘導をされておられましたけれども、そのようなソ
フトというのを外部といえますか、直接観光には関係のないボランティアの方々が頑張っていた
きよる中で、直接的な観光に関わる方々も今までの考え方を変えた受け入れのあり方というも
のを真剣に考える時期が来たんじゃないかというふうに私は思います。しっかりとそのあたり、
私ども行政としての誘導もしていきたいというふうに思います。

いろんな取り組みを今現在まで市としては観光に関してはしてきております。ところが、それ

が費用対効果ということで仮に言われた場合、投資した分に対して、じゃあ何人それで直接増えたかというのの関連性を見出すことは大変難しい部分があります。しかし、投資をしないと人は来ないだろうということで、韓国の方においても、そして国内においても、しっかりと施策を打ってきている次第です。特に市としましては、観光物産協会と一体となって、都市圏のエージェント訪問もやっております。モニターツアーも取り組んでおります。そしてエージェントに対して観光商品をつくっていただくための現地研修等も行っておるところです。そして福岡事務所を核として、北部九州においては、さまざまなアウトドアショップ、レジャーショップとか、そういうところにもずっと出向いて、対馬の体験ツアー等の商品造成に向かって動いているところ

です。
また、この福岡事務所においては、新聞・ラジオ等のマスコミ、この媒体をフルに活用して対馬の認知度を向上させよう、さらにそのことによって誘客を促進していこうということで、日夜彼らは頑張ってくれているところ

です。
また、最近よく話を聞きます大型クルーズですね、このあたりのことについても一生懸命取り組みをしております。で、このクルーズ船については、ナナハン岸壁がどうしても必要ということで、国土交通省の方にもクルーズ船を引っ張り込みたいということも含めて港湾の、昨日も話しが出ましたが、重点港湾の選定の問題については、そこも色濃く出しながらお願いをしてくれているところ

です。ところが重点港湾の分については、新たな新規の分は認められないというふうな国の大変冷たい決定でありました。私も対馬は、この大型クルーズに関しましては、外国船員をほとんど雇って運航をされておられます。で、外国の船員さんの場合、1カ月に1回は国外に出なければいけない決まりがあるそうです。で、できれば一番近い韓国の方に1回出ることによって、それはこなせると、クリアできると。ならば、同じ船を動かすならば、この対馬の観光をそこに入れ込むことによって、ただ単に船員を1カ月間、法律の決まりのために運航するのではなくて、商品として1回外に出る、そのようなこともお願いをしていこうということで、ずっと協議を相手方としている状況

です。
そういう中で、新年度は3隻の入港が一応決まっている部分があります。当然、今の世の中ですから、そしてインターネットの活用ということで、うちのホームページもしかりですが、福岡事務所のホームページ、対馬観光物産協会のホームページ、これらも頻繁に更新をかけながら情報提供に努めているところ

です。
私は先日、大手の旅行会社の役員さんがお見えになった際、ずっと新しい商品の造成について話をしたんですけども、これから先、国境観光という商品があるんじゃないかという提案もさせていただいたところ

光というものを取り入れてほしいというふうなお話もさせていただいたところです。

役員さんについても、今の社会情勢等を考えたときに、そのようなものも商品としてできるだろうというふうなこともあります。また、司馬遼太郎の本にもありますように、対馬がまさしく神々の島というふうな表現がされておりますけども、この神々の島というものを日本人として体感する最もいいフィールドは、私はこの北部九州の中では対馬だと思います。そういう意味において、きょうもそうでした。全国の神道連盟の青年部の方が観光といいますか、視察にお見えのようにありますけども、この神々の島という日本人のアイデンティティーというものをきちんと表に出していけるものを商品として全面に押し出していきたいなというふうな思いがあります。

そういう意味において、しっかりと観光というものを位置づけながら取り組んでいきたいと思っておりますし、冒頭言いましたように、この観光の基本的な部分というのを私ども市民、そして関連する皆さんが、考え方をこの機会に変えていく努力をお互いしていかなくていけないというふうに思っております。

また、韓国観光客の将来というものでございますが、これについては、国内国外全く変わらず物事はやっていかないといけないというふうに思っています。明らかに近い、そして数の多い、そこにお客さんがいらっしゃるわけですから、その方たちが、ある意味満足していただけるようなものを提供していく必要があろうかと思えます。それが対馬の生き延びていく大きな要素だというふうにも思っていますし、歴史を振り返れば、そのようにして生きてきたというふうなことであります。

これは余談ですが、たまたま今読んでいる本が1500年代を舞台にした「対馬往還記」という本を読んでおりますが、そのときも宗家がにせの国書で人を玄蘇、外交僧であります玄蘇を送り込むというふうなことで貿易をしているというふうな場面があります。それは、にせの国使を使ってでも貿易をしていかないと生き延びていけない対馬の姿だと思いますし、決してうそをするつもりはありません、現代ですから。しかし、私どもは韓半島も九州北部もにらみながら生き延びていくことは、未来永劫変わらないんじゃないかというふうに思っております。

次に、北部の振興策についてお話がございました。確かに近年といいますか、この10年ぐらいの間に上県、そして上対馬地域においては、それぞれ1,000名近くの方が減少していると。北部2地域で2,000名近くの方ですね。しかし、これを今すぐに止める方策というのはあるのかといたら、日本の人口減少が始まってから日本全体のなかなか難しい問題だというふうに思っています。しかし、先ほど言いますような、私どものこの対馬の地勢的な条件を前面に押し出していけば十分にやれるというふうな思いがありますし、今進めております、この環境を前面に出しながらやっていく施策というのでも十分に人は入ってくるであろうし、そしてこの北部地域においては木材という大きな財産も抱えてあります。そして舟志は木材の積み出し港というふ

うなことで、たしか平成10年ぐらいに整備を完了していると思いますけれども、そのような舟志港、比田勝港の中の舟志港も十分に活用しないといけない。舟志という場所は、すごく上県からも抜けて利便性の高い港だと思いますし、このあたりも十分に積み出し港として私は使っていけるというふうに思っております。

で、今までの公共事業というものは、もう皆様御存じのように、以前のような形で復活するということは、もうあり得ない時代になっているわけで、じゃあどうするかということ私どもはみんなで考えなければいけないと。で、この2つの活性化センターは、今までいろんな経済対策を国が打ってきた際に、センターの職員も一生懸命に考えをまとめて出してくれています。最もセンターの中で予算が多いのは、この2地区です。この2つの地区が、自分らの地域のやはり危機感というものをしっかりと予算に反映させながら次なる展開というものを模索している姿、もがき苦しんでいる姿も十分に感じているところです。私どもはそこについては十分に把握もさせていただいております。私自身もどこかで妙案はないかともがき苦しむ部分もあります。で、市民の方々も一緒になって物事を組み立てていかないと、行政だけでは到底私は不可能だと思っておりますので、そういう意味において、今職員と一緒に市民の方も方向性というのを見出すために頑張ってくださいと思いますし、その方向性が定まったときに私ども行政が次なる支援を打っていくというふうな考え方を持っているところであります。

その他につきましては自席でさせていただきます。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 非常に具体的な戦略という前に受けるものと呼ぶものの、いわゆる心意気が整った中で事を進めない限り、この産業は伸びないという、非常にまとは得ていると思います。それで私は、まずそのことの中で尊重はいたしますが、現状と将来のあり方がどう移るか、この辺について若干お話を聞きたいんですが、韓国のことも並行して、国内の観光と両方申し上げますが、平成19年度の数字の中で、来島された韓国の入国実数は6万5,470人というふうな数字が出ております。非常にわかりやすいです。100%に近い状態の観光客と見なすんですが、片や国内の観光客の実数は、統計資料に基づいた中で非常に確認ができていく状況ではありますが、基礎数字となるおおむねの日本国内から対馬に来た1年間の実数をどのくらいに市長は見ておられますか。まずその点を認識の中で、私はこの部分はある程度詰めんといかんと思うんです。ひとつお尋ねいたします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 国内からのまず入り込みの数字については、今観光統計が算定方法を変えているということで、まだ正確な数字はつかんでいないのが実態です。で、今までの観光統計というのがあまりにもアバウトな数字でありました。で、そのあたりでは、次の方向性が見定め

られないということで統計のやり方を観光統計については変えるということになって、今その作業をしている段階です。

ちなみに、昨年までのその観光統計の数字でいきますと、六十数万人というふうな数字が出ていますが、これについてはもう首をかしげるしかない数字だと思っております。実態とあまりにもかけ離れているというふうに思いますので、そのあたりのきちんとした数字が出た後に、今の入り込み客数というのは発表ができるのではないかなと思います。昨年までの観光統計が正とすれば六十何万人というふうな数字であります。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 私は、担当部署を含めて市長にもお願いしたいんですが、日本国内からどのくらいの数字が、本当に、半分以上は観光、半分以上はビジネス、いろいろありましようが、ここの数字は抑えておかないと物事が語れないと思うんですよ。例えば永尾部長の説明されましたね、これ資料。第1次対馬市総合計画の基本計画の見直し案の1ページ目、この一番下の経済の中に観光客の数字が入っております。ね、これを書いていますね、唯一観光客が15%程度増加し、拡大が期待できると。その数字を見ますと76万8,522名という数字が出ておりますが、これはあくまでも今市長が申し上げますように、とらえ方の数字が、根拠が違うものですから、これをうのみにすれば大きなことになりまして、とんでもない数字でございます。

しかし、このことが韓国では6万数千というふうなことが確定しまして、日本から何人来ているかというのがわからんということは、私は観光行政をする中で、今からひとつおおむねその数字は抑えていくようなことにならないと本物ではないというふうに思いますので、ひとつそれは担当部署含めてその努力をしてほしいんですが、私は本部長の本石さんからお聞きした数字は、実質がどのくらいだろうかと。で、問題がありましようが、本石部長の見解では実数としては5万あるだろうかという話がありました。しかし、これは観光プラスビジネスを含めた数字であるという言い方をされまして正解だと思います。そうなれば、本当に来ている実数はそれ以下だというふうに認識するべきでしょう。そうすればこの現実、非常にスモールであるというふうに私は思っております。その辺、私はそういうとらえ方を厳しくしているんですが、認識はどのように思っておられますか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 私今大浦議員がおっしゃられるように、その数字、もらった数字もそれ以下で恐らくという、懐疑的に思っておりますが、私もこの観光統計そのものもすごくアバウトな統計をずっとやってきて、日本中がやってきているわけですけども、いつか新しいのが欲しいなというふうな、やり方が欲しいなというふうに思っておりましたけども、今回からそういうふ

うなことで、新たな手法でやるということで、本当の実数というものが、実数に限りなく近い数字が出るんだらうなということで逆に不安半分、期待半分といいますか、そういう感じでその数値を待っているところです。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） それで、私もくどいようですが、そのことが今問題であるというふうに提言してもよろしいかと思えます。

それと、島にどれだけの経済効果をもたらすか、この件につきまして、私は島民の皆様を含めて、このことが十分理解をするべきであろうと思うんですが、資料によりますと、平成19年の6万5,000の韓国よりの来島された経済効果は21億円というふうな数字を長崎県の統計関係の専門の方からはじき出したというふうなことを聞いております。

それと、その旅行会社が募集した旅費、これがおおむね30万ウォンであろうと。ですから3万円の日本円にしまして、その前後が旅費の1泊2日の金額であると。そうしますと船賃が7,500ウォンの往復ですから1万4,000円前後の、5,000円前後のお金がかかるわけですが、私はそういうふうな積算の中で、じゃあこの宿泊とバス、あるいはガイドさんの手数料、あるいはその残った土産とか、そういうふうなことを含めた積算を非常に分析として私は把握しておりませんが、できれば本石本部長、あるいは市長で結構ですが、これらの分析をどのぐらいのお客さんが島にお金を落としているかというふうな積算という見方、これをできれば分析されておるならば教えてほしいと思うんですがいかがでしょうか。どっちでも結構ですが。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 確か21億6,000万円だったと記憶しておりますが、で、単純にそれを6万5,000人で割ったときに1人3,000円の消費額といいますか、島内消費額ということになるのかなというふうには、そのとき21億6,000万円を見たときには思いました。全てを含んでですね。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 私は、今韓国の観光のことを申し上げたんですが、国内の観光についての戦略が、具体的に対馬を売り込む中で、先ほどいろいろ申されました。その中で、もう少し基本的な戦略が私があってもいいんじゃないかということがあったんですが、これは今から4年ぐらい前になりますが、全日空の職員を対馬市が一時的に採用いたしまして、地域マネージャーという言葉でございます。この方は年の報酬を1,000万円、1人の職員に1,000万円、これを給付しまして、2年から2年半、たしか対馬市でその業務に携わって、対馬をどう本土の観光客にその引き込めるかという戦略をこの方は、いわゆるその積み上げたと思います。

このことの成果が私は非常に期待しておったんですが、財部市長になられてから、あるいは前

市長の間の踏襲でも結構ですが、このことが私は非常に対馬の観光を変えるものとして、ひとつの思いがしておったんですが、この続きについて、どうなっているか、これをお尋ねしたいんですが、部長でも結構です、市長でもいいですが、このことについて、ひとつ見解をただしたいと思います。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今の件につきまして、私と部長のほうで答えたいと思います。

確かに、ANA、全日空ですね、ANA総研と対馬市との間でアドバイザー契約とありますが、そういうふうな形をとって全日空の方からお一人お見えになりました。地域再生マネージャーという肩書きでお見えになりました。で、これについては、観光物産全般にわたってということの取り組みをしていただいたところであります。

で、特に観光と物産とどちらが主かといいますと、その方の感覚で、これだけの資源があるのに対馬の物産の売り方が下手だと、対馬が、ある意味ですね、そういう思いを強く持たれたみたいなんです。そういう中で、ANA関係の航空商事とか、いろんな取引先を紹介していただき、そしてその関係者をこちらに呼ばれ、商品をつくって、そして向こうに出すということに特に力を入れていただいていたような気がします。

しかし、ANAのほうは対馬との関連ということを十分認識されておられまして、ANAの商品開発のときも、当然対馬の商品を入れていただく、それは旅行商品ですね、ということもございましたし、今月号の「翼の王国」のたしか10ページだったと思いますけども、ここにも対馬の特集をしていただいているところでもあります。

今も実際、全日空の伊東社長は年1回対馬のほうにお見えです。で、私がお会いするときと会えないときもありますけども、お互いこちらに来られる時の情報も入ってきている次第です。で、この対馬の商品というものについても、全日空はしっかりと取り組みをその後していただいているところです。

というふうに、私はANAとの関係は今もずっと続いているというふうに認識をしております。そのほかのことにつきましては部長のほうから答弁させます。

○議長（作元 義文君） 観光物産推進本部長、本石健一郎君。

○観光物産推進本部長（本石健一郎君） 今市長がお答えしましたような部分でANA関係の分なんですけども、特別にまた現在、来年の2月号になろうかと思っておりますけども、「翼の王国」で対馬を掲載してあげると。さらには、ANA総研絡みで社内で歴史案内人という公募がございまして、対馬に関する案内人という部分でANAのほうから1名とANKのほうから1名、2名が歴史案内人というような社内システムで1月にはまた対馬に伺いたいというような報告も受けております。

私どもといたしましては、広告料として出すよりも、マスコミ媒体あたりには、何とか記事に
していただいて対馬を売っていただきたいと、売っていくというようなスタンスで考えておりま
す。

以上でございます。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 担当部署からの資料をいただきまして、平成20年度の旅行会
社の対馬に送り込んだバスの利用状況からその割り出しているんですが、実は関東からのお客が
48%を占めているんですね。すごい数字なんですよ。これは私は間違いじゃないかな、九州じ
ゃない、いやこれ関東が48%、6,000人ほど。これは1万2,750人、団体のツアーのバ
スを利用した、韓国の旅行関係やバスは、もうほとんど分離されて、多分対馬交通が主体となる
と思いますが、この数字から見ますと、関東が半分取っとるんです。意外やったですね、その後、
中部、その他中国方面、九州はわずかなんですね。もちろんこれは旅行会社が企画したと。これ
を見たときに、全日空の地域マネージャーの構想は、九州の太宰府に旅を基本として、万葉の旅、
「まほろばの」という言葉を使ってましたが、私はその万葉集のそういう歴史の過去の中で太宰
府から壱岐対馬の旅を企画するというふうな、たしか提案を記憶の中にあるんですが、ひよっと
したら、このことが活きているのかなという気がするんですよ、その方の仕掛けたようなことが。
やはり一部活きているんじゃないかなと思いつつながら、このことをいい成功事例じゃないかなと思
うんですが、その辺は本石部長でも市長でも、つながっておれば非常にすばらしいことなんです
が、どういう見解をもっておられますか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） このパックの数字につきましては、今言われる地域再生マネージャーと、
そのANAさんが観光商品としてきちんと組み込んでいただくことも当然影響というか、いい意
味で効果が出ていると思いますし、また九州郵船の九郵観光さんですね、この方たちも関東のほ
うで商品を強烈にセールスをされておられる、その部分もこの数字にも入っているのかなとい
うふうに思います。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） そういうふうなことで、非常にいい傾向でありますから、これ
はお客さんを逃がさぬよう大事にもてなして、また再び来るような話ができるようなことに私は
大切にせないかんと思う気がいたします。特に遠いところから来ていますから。

それと、次に進みたいんですが、韓国の観光の戦略、これで私はひとつ思いがございまして。初
日に市長の行政報告の中で、5ページ目にあるんですが、10月14日、韓国ソウルで開催され
たそういうふうな旅行関係のいろいろな行事に参加されておりますが、ひとつこの中にソウル

とプサンの間の新幹線が開通されて、3時間かかるのが2時間18分に短縮されたというふうなことで、今までジェットフォイル等に乗ってきたお客さんが、朝鮮半島の南側釜山を中心としたエリアのお客さんが多かったであろうが、もうそろそろ底をつき、ソウル方面に集客を旅行会社とともに、地元とともに、対馬の、そういう戦略に打ち出すに非常に絶好の機会であるというふうには思っております。で、その中で、その戦略の一つとして、ソウル事務所、今釜山事務所ということでお聞きしますが、このことの対馬市のとらえ方、仕掛けというのは、どのような活動をやっておられるのでしょうか。そのそういうふうな事務所としての誘致に対するそこらあたりをちょっと聞かせていただけないでしょうか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 釜山事務所のその誘致の事業関連のことにつきましては、担当部長のほうから答えさせます。

○議長（作元 義文君） 観光物産推進本部長、本石健一郎君。

○観光物産推進本部長（本石健一郎君） お答えいたします。

釜山事務所におきましては、平成15年に開設をしたわけですが、まず人間的な部分をどうするかということがあっておりますけども、まず一番妥当な人物がおったということでございます。かつて巖原町の国際交流員として3年間勤めました職員が副所長ということで、事務所開設当初から現在まで、流暢な日本語でもって対馬を熟知した状態で、もろもろの対応を行っております。

特に韓国におきましては、集合住宅が多い関係で、非常にIT関係が進んでおります。そういう部分でいけば、アクセス数も年間3万を越すようなアクセス数で、次が電話、それからエージェントの対馬紹介とか、あるいは対馬から行く各種の交流団体のお世話であるとか、常に忙しい状態であるようです。

特に今後は、今貿易関係が特に振興するよというふうな方向でございますので、そちらのほうも釜山の商工会議所あたりとも連携をとって、いろんな情報を集めております。主に、ですから対馬の紹介ということで行っておりますが、今後はまたそういう部分でいけば、非常に負荷がかかってくるんじゃないかということも私自身は心配をしております。

以上です。

○議長（作元 義文君） 16番、大浦孝司君。

○議員（16番 大浦 孝司君） 時間がどんどん過ぎましてあれなんですけど、私はソウルからの観光客の誘致に今後そこを拠点とした切り替えとございますか、それは富裕層のいわゆる流入、ここを狙う中で戦略としては絞っていくような方向で考えていただきたい。これが一つ。

それと、航空便の臨時便が現在2つの空港から対馬空港に飛んできております。このことにつ

いても、私は大きな着眼をせなならんという考えを持っております。この点は後で市長またソウル方面、金浦空港からこちらにやってくるお客さんのとらえ方、これ後で聞きますが、時間の都合、あと3分しかございません。北の浮揚のためにどうするか、この時間わずか3分です。私は申し上げることは十分ではございませんが、一つ考えてほしいことがございます。今年の見込みとして、現在4万7,980人が10月末、観光客が韓国から来ているそうです。それで年内見込みで6万人を割る。5万台の数字であるだろうと。南北のいろいろ緊迫した中で安定したこれだけの数字というのは今後も伸びるであろうと。ただ、現在、厳原港に週4回、上対馬港に週3回、この船、観光船は入港するわけですが、比田勝港のほうにおいての宿泊は、香海荘以外はほとんどない。あと厳原がすべて厳原、美津島に泊まっているというのが現実でございまして、そうなれば、お金というのは宿泊したその場所にほとんどの金が落ちると私は思っておりますが、この上の景気の浮揚を韓国の観光客と考えた場合には、この問題をどうするかが私は大きな課題であろうと思います。1分しかございません。市長そのことにつきまして私は特にどうしても香海荘以外の宿泊施設の誘致をやらない限りは、この問題は解決しないと思っておりますが、政策補佐官の今までの企業誘致の対応の中で上についてどういうふうにとらえてきたか。例えばホテルの誘致が具体的になれば、これをどうとらえてきたのか。このことを解決せん限り、私は上の浮揚がないような気がします。というのが、厳原中心にお客さんが泊まり、そこに金が落ちる。帰るだけの土産品を買うのが上のいわゆる立場、これでは私は抜本的な解決にならんとします。そのところをひとつ最後ですが、今までとられてきた、今後どうしようと思うのか、そこらをひとつ最後に時間になりましたがよろしく申し上げます。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 上のほうの振興策でございまして、先ほど申しますように、職員と地域の方々が一緒になって、さまざまな今取り組みをソフトの部分で一生懸命やっていたと思っています。

で、最近、民間事業者のほうと行政のほうがタッグを組んでやりましたのが、グラスボートを導入すると。そして、あの北部鰯浦豊近辺のトレッキングのコースづくりをしていく。最近では、舟志の学校の周りの河川の改修方法を今観光客、そして子供たちが喜んでもらえるような川につくりかえてみようじゃないかという動き等も出てきております。そのような動きというのが私はすごく大切だと思っております。それが観光商品の一部にもなっていくというふうな思いを持っておりますので、その動きをどんどん進めていきたいというふうに思います。

もう一点の件につきましては、補佐官のほうからお答えさせます。

○議長（作元 義文君） 政策補佐官、松原敬行君。

○政策補佐官（松原 敬行君） 大浦議員のホテル等の宿泊施設の誘致の問題でございまして、これ

につきましては、過去にもあそこの渚の湯のホテルあたりの土地にそういった話が過去にもありました。現在もその土地がそのまま現存しているわけでございます。

私ども、企業誘致の担当としましては、当然厳原、あるいは上も一緒ですけども、同じ立場でそういった希望する企業を物色しているのが事実でございます。ただ、現状といたしましては、今ある旅館を旅館業等なさってある方々のやっぱり御意見も十分に把握しないと、どうかなという部分もあります。既存の旅館業を営んである方々につきましても、年中的に決して宿泊客が詰まっている状況ではございません。ほとんど空いているというお話も聞いております。だからその辺のやっぱり調整をしながら企業誘致は進めていくべきだというふうに考えております。

以上です。

○議長（作元 義文君） 以上で、大浦君の質問は終わります。

.....

○議長（作元 義文君） しばらく休憩します。開会を11時10分から行います。

午前10時53分休憩

.....

午前11時10分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） 質問の機会をいただきましたので、ただいまより一般質問をさせていただきます。

さて、ことしも終わろうとしておりますが、報道によりますと、日本の景気はややよくなってきているということでもありますけれども、我が対馬においては、そんなことは感じられません。むしろまだ下降気味ではないかと心配しております。市長、対馬の今日の経済状況をどのようにお考えでありましょうか。

さて、通告に従いまして質問をさせていただきます。

1番目の経済対策についてであります。国の政策で始まりました緊急雇用創出事業臨時特例事業、またふるさと雇用再生特別基金事業が平成21年度から3年間、この基金事業が創設されて、いろいろな分野におきまして雇用対策が実施され、延べ279人の雇用があり、金額にいたしまして3億4,194万8,000円の事業費が投入されております。そのことによりまして、かなりの効果があったと思われま。

しかしながら、聞くところによりますと、雇用されておられる方もこの12月末で打ち切られるという人もおられます。このようなときにおきまして、23年度においてどのような基金事業があるのかお尋ねをいたしたいと思っております。

次に、島内の3つの高校の卒業者の合計が265名であるそうでございます。ハローワークにより調査をいたしましたけれども、内訳は専門学校を含む進学の方が195名、就職の方が70名で、そのうち12名の方しか島内には残られない状況であります。

いかに就職先がないかということがよくわかります。そして、あと四、五名程度就職が決まってない方もあるそうでございます、島内におきまして。そのようなときに、来年度予算において、どのような対馬経済の立て直しを今後取り組もうとしておられるのかお尋ねをしたいと思っております。

2番目の自衛隊増強について質問をいたします。

一昨日にも市長の行政報告、また国境離島活性化対策特別委員会委員長糸瀬委員長よりも報告がありましたが、その後の市長の対応について質問をいたします。

11月23日午後2時34分ごろより、北朝鮮より韓国延坪島への砲撃を受け、軍人2人、民間人2人、計4名の死亡が出ております。ほかにもけが人が多数出ております。本当に何をしでかすかわからない国であります。しかしながら、対馬に近いところにあります。市長、この韓国が攻撃を受け、あわや戦争になるかもわからない大事なときに、その時間とその後に対して市長はどのような対応をとられたのかお尋ねをしたいと思っております。

我が日本は、国土面積では61番目ではありますが、6,852の島々からなり、領海の面積は447万平方キロメートル、国土の12倍の広さで世界で6位であり、いかに離島が大きな役割を果たしていることを国はわかるべきであると思っております。ロシアのメドベージェフ大統領が国後島を訪問したり、115年ほど前は北方4島をいかにも返還するような署名をしておきながら、海洋資源の豊富さに目をつけ、今ではなかなか話にならないように思われます。

自衛隊関係者の間では、毎年北方4島返還の署名活動が続けられております。何としても国に頑張ってもらいたいと思うものであります。また中国尖閣諸島の問題においても日本に対抗してきております。今こそ日本の領海を守らなければなりません。

そのようなとき、年末には防衛計画大綱が発表されます。市長、そのようなときに、どのような対応をとられたのか、この20日ぐらいの間にですね、それをお尋ねしたいと思っております。

再質問は後で市長の答弁によりましてさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 中原議員の御質問に答えさせていただきます。

1点目の経済対策についてでございます。対馬の経済をどのように立て直していくのかというふうな話ではありますが、少なくとも国内の経済のパイがどんどん縮小していく中で、対馬の経済だけを伸ばすということは大変至難の業だと正直思っております。で、そういう中で、急激にそれを上げるということは、なかなか難しいというふうに正直なところでございますが、しかし、

そうは言っても、この対馬の経済がしぼんでしまって、先ほど議員の皆様で話が出ておりましたけれども、人口はどんどん減少して行って、これから先どうなっていくんだろうというふうなお話のように言われましたが、それを食いとめるためには、どうしてもこの私どもの基幹産業である水産業というものを復活させなければいけないと。これが長い目を見たときに対馬の再生につながるというふうに私は基本的に思っています。

このためには、何度もここでも申し上げ、市民の皆様漁業者の皆様と一緒に今取り組んでおりますけれども、海洋保護区の設定というものは、対馬にとってはすごく大切な問題だというふうに考えております。

で、約40年ほど前の私、上対馬比田勝に住んでおりましたけれども、その当時の比田勝の活況というのは水産業でもっていたというふうに思っております。ああいうような活況を呈するようなことであれば島全体が潤うというふうな思いもあります。どうかあの四十数年前の状況というものに向かっていきたいと思っておりますし、そのためには資源管理型の漁業というものを市民の皆さんも漁業者の皆さんも御理解をいただき、そこに向かって海洋保護区を設定をする。そのことによって漁価は必ずや上がるというふうに思っておりますし、資源も復活するというふうな思いを持っておりますので、愛知ターゲットで決まりました方向性というものに向かって、政府に早い海洋保護区の指定をお願いをしていかななくてはならないと。それが経済のベースになるというふうに私は強く感じているところであります。

そういう中、高校生のお話がありました。確かに対馬の中でということになると難しさが現時点ではあろうかと思えます。しかし今、即効性のある事業所というものは難しいと。現時点のこの日本の経済の中では、いろんなところに足を運んでいっても難しさをすごく感じております。二、三年後の対馬の方向性というものをどうかして変えていくために、先ほど中原議員がおっしゃられた緊急雇用とか、ふるさと雇用とかいう国の制度を活用しながら一生懸命職員も取り組んでくれているところであります。

この事業につきましては、今までもこの2カ年間もしっかり頑張ってくれる中で、4億円余りの事業をやってくれております。そして、来年216人の雇用を予定をしております。で、38の事業であります。この数字とこの金額については、県下でも実は突出した数字です。で、緊急雇用はたしか基金は県に30億円しか市町村分はなかったと思っておりますけれども、そのうち数億円をうちの市が手を挙げて、そしてこれは一件審査でありまして、枠配分ではないものですから、職員がいろんなことを考えながらアイデアを出して雇用を生み出して頑張ってくれた結果だと思います。その結果、県下ほかの市町村から、どういう形で対馬市はそれを取っているんだというふうな問い合わせが来るぐらいでありまして、私は今回この来年の216人雇用の予定ですけども、これらこの3カ年の事業については、正直職員に感謝をしておりますし、職員も今の対馬の

経済状況、雇用状況というものを十分に把握して一生懸命に取り組んでくれた結果だというふう
に、正直皆様にこれだけこの部分に関しましては職員を褒めてあげたいというふうな思いを持っ
ているところであります。

2点目の自衛隊の関係でございます。それと、今回11月23日に起こりました南北の紛争が
起こった時点のお話を今尋ねられたわけですけど、昨日でしたか、一昨日でしたか、この11月
23日については、2時、今何分というお話がありました。正直言って、2時何分のときは全く
私はわかりません。情報も全く入っていませんでした。恐らく日本のマスコミに流れたのは5時
ごろだったというふうに私は記憶しています。というのが、私は6時からその日は対馬の厳原に
在住の永留久恵先生が自費出版された「対馬国志」が全国の自費出版大賞という大賞を受賞され
ました。それで、その受賞のお祝いの席に6時に行くということで、5時に出張から帰ってきて、
たしか用件が1件ありまして、5時に、なぜ5時かと言いますと、散髪に行った時間でしたから、
そこで散髪屋で実はテレビであることを知りました。で、その永留先生のお祝いの席では韓国の
大学の先生がお見えでしたから、この問題についてソウルにお住まいのこの歴史学者に話を聞こ
うということで、6時前に会場に行きまして、先生にお会いしました。そのとき先生は、その情
報をちょうど聞いたばかりで、韓国のほうに携帯で電話をされておられる最中でした。電話が終
わりまして韓国の先生に、「今回の件について教えてください」ということで聞きましたら、
「この件については、間違いなくすぐに終息しますね」というふうなお話をされました。「いや、
本当ですか」という話をしましたら、今までの韓国と北との物事のやり方をずっと熟知されてい
る方ですから、そういう意味において、また別の韓国の方に先生は聞かれたと思うんですね。

そのことを聞いたときに、私に対して、ほぼ間違いないとそういう方向になるということをお
っしゃられたものですから、若干の私は今回の件については、大きくなるいなということで安
心をした次第です。そのときに言われた言葉が、「米韓の合同軍事演習が間もなくしたらあるん
ですよ」と。私らは正直言ってわかりませんでした、あのニュースがあったときは、一報が入っ
たときは。その先生は、もうそのことを言われました。で、軍事演習に向かって、まず一つの威
嚇といいますか、警告を鳴らすために、今、北はああいうふうな行動をとっているんですよとい
うふうな冷静な判断をされたものですから、私は安堵したという次第です。

で、その後の推移をずっとニュース等で確認をしていきましたが、その途中から軍事演習の米
韓の軍事演習の話が翌日ぐらいから出てきたときに、ああそういう方向になるのかと、先生が見
通されたとおりになっているなというふうなことで、ずっと徐々に心が落ち着いていったのを覚
えております。

以上でございます。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） ちょっと市長の答弁で拍子抜けしたところがありますけれども、後でまたやりたいと思います。

経済対策のほうから先に入らせていただきますけれども、やはりそのふるさと基金とか緊急雇用創出事業とかに職員の皆さんと市長がともに頑張られたということはわかります。この件に関して、来年度の金額は今言われませんでしたけれども、相当な額が出るんじゃないかなと思いますけれども、それ以外に対馬に對しましての新年度予算というところの状況は何か考えてあるものはないでしょうかというお尋ねをしたわけですが、お願いします。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 新年度予算に向けてということですが、その前に、国の緊急対策が11月26日に出されたと思います。そのことをしっかりと反映させなくてはいけないという考えを持っております。

で、この金額につきましては、今これは枠配分で来ている分ですけれども、5億4,000万円の枠配分が来ております。ハード、ソフト何でもいいみたいですが、それをしっかりと組み立てていきたいというふうに思っております。

ところが、時期が時期ですので、新年度予算等、予算編成とかぶってしまう部分があったり、項目がかぶるんじゃないかというふうな別立てというのをごちゃごちゃになってしまう部分がすごくあるなというふうなことがあります。で、そのあたりの整理をきちんとしてから臨時議会でもお願いをしないとこれはいけないと。3月の定例までは当然待てないなという思いはしております。ただし、先ほど言いますように、当初予算と補正予算がごちゃごちゃになってはいけないので、そのあたりをきちんと整理をして、補正分ということで皆さんにお示しをしたいなというふうな考え方をしております。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） 期待をしておきます。市長もやはり今度は3年目になりますので、しっかりと目玉になる対馬経済を支えていただきたいと思います。

きのうも全協でもお話がありましたけれども、やはり今対馬の消費が落ち込んでおりますので、家庭を例にとってみればわかりますけれども、収入を少なく出費はかさみ、そうなりますと家計は苦しくなっています。出費を抑えなければなりません。漁民の皆様方の話を聞きますところによりますと、峰からイカのトロ箱1箱出すのにでも、福岡の魚市に出すのに200円ぐらい運賃がかかるそうです。そういったときに、その比田勝辺から来るのなら、なお高いものにつくかもわかりませんが、運賃が2割でも3割でも安くなれば、漁民の皆さんの収入は増えると思います。また、本土からいろいろな品物を買うときも船運賃の高いところになります。

やはり島内において第1次産業の農業では、イノシシや鹿の被害に遭われ、水産業においては

大中まき網や底引きによる漁業の低迷等によりまして、島内での事業拡大はなかなか見込まれていない今日であります。そのようなときに、きのうも話があったおりました海の国道としての見直しをやはりしっかりと県や国に訴えていくべきではないかなと私は思います。

市長も一生懸命取り組んでおられるのはわかりますけれども、11月27日の新聞によりますと、もうきのう全協であった九州郵船のジェットフォイル2割、フェリーは1割との分がこれ11月27日段階で載っておったわけですが、その中におきまして、五島のほうの、ちょっと書き方がわかりにくかったんですけども、身障者割引拡充自動車航送割引の利用実績が少くないとして、航送料そのものを割引することが決まったということが書いてありますので、この身障者割引だけかなというところがわかりにくい点があるんですけども、やはりこの場合に物流に対しましても、航送料そのものが割引されるということが前提になると思います。議会を挙げてその意見は一致しておりますけれども、特に力を入れていかなければならない人間の運賃の値下げとともに、物流に対してのコストダウンというところにつきましては、市長、こういった考え方をもちでしょうか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 物流のこの運賃の部分につきまして、今漁協の組合長さんたちに提案をさせていただいてあることがあります。これについては来年度から取り組みをしたいと思っておりますが、インターネットを介して顧客を広げていくということがすごく大切なんではないかと。小口の消費者向けに物を流し込んでいくというふうに、今の漁獲高のそれこそ5%でも10%でもいいから、そちらに振り向けていくべきではないかという提案をさせていただいております。それらにつきましては、運賃の助成を主として一定の年限を区切ってしていきたいというふうな考えを提示を今協議をしているところであります。

この意味するところは、今の物流の流れでは、漁師さんの手取りは上がらないというふうに思っています。この流通にメスを入れないと、第1次の生産者は永遠に苦しむのではないかと。ならば小口の消費者をどれだけ開拓しながらやっていくか。それはJAでもJFでも一緒だと思います。そちらに転換をしていっていただきたいという思いで、そのような今制度を組合長の方々に提案をし、協議をしているところであります。そういう意味の運賃助成を組み立てております。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） ぜひそういったことはどしどしと進めていっていただきたいと思っております。

県の離島振興法の延長とか拡充に向けて協議している団体があります。その団体によりますと、離島の自立的発展につきましては、本土と離島間の輸送コストを陸上交通並に低減化するなど思い切った措置を講じる必要がある。また島民生活や島内産業に大きな影響を与えるガソリン価格

の是正を図るため、揮発油税を減免する必要がある。産業創出や企業立地に向けては、法人税の減税など、大胆な優遇措置が必要であると、こういった提言をしてあります。まさしくそのとおりであります。ですから、市長があらゆるところで物申す場面が多いかと思えます。ぜひ対馬島民の懐を守るためにも頑張ってくださいと思います。

そして、この海の国道でございますけれども、24年4月から新しいフェリーが就航する予定になっておりますけれども、とんでもない話かわかりませんが、今島内経済の低迷が続く中におきまして、値下げした運賃で1年前倒しでできないものかなと私は思うわけです。

きのうの説明によりますと、11年間ほど運賃の低減化を図ると九郵からの話であるようにありますけれども、これが九郵側と話をされまして、今対馬の経済を立て直すときではないかなと思えますが、来年4月より1年前倒しでできないものかなと思えますけれども、市長、急に言われても返答が困るかと思えますけれども、どうですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 前倒しが一番ようございますが、昨日この問題で話していたように、年間8,000万円ですかね、という金額を、ではどこが負担をしていくのかということになるかと思えます。で、九郵さんがこの負担をしていただけるならば、それが一番いいんですけども、私どももその8,000万円という金額を到底一般財源で物事組み立てるということは不可能かと思えますし、今の長崎県の離島基幹航路協議会のほうに、このような御意見がありますということで1回お伝えはしたいというふうに思えます。しかし、正直なところ、これ大変苦しいことだろうと思えます。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） ぜひ本当、市長、市民を守る一番の市長ですから、それが役目ですから、いろいろな痛み分けをしていただいて、九郵にも痛み分けをしていただいたり、そういったところの団体にも痛み分けしてもらったりとか、一般財源がなかなか今対馬の財源も厳しいのよくわかります。そのときには幾らかの基金の取り崩しを前倒しでやっていくとか、何らかの、急な私の質問ですから、まともな答弁はできませんけれども、じっくりと考えて、あと4カ月程ありますので取り組んでいただきたいと。そうすることによって、本当に島民に喜ばれることになるのではないかなと私は思います。よろしく願いいたします。

10月23日に「国境離島・外洋離島フォーラム」が上対馬でありまして、そのときに中村知事が申してあります。「離島の発展なくして長崎県の発展はあり得ません」と豪語してあります。第2のふるさととして中村知事は対馬をたくさん思っているという認識いたしておりますので、この点十分力を入れていただきたいと思う次第であります。

次に、自衛隊問題に入らせていただきます。

市長にお尋ねしたかったのは散髪屋で云々かんぬんの問題じゃなくて、この市長も新聞を読んでいるとは思いますが、本当に正直な方だときょうは思いました。そのとおりに話をされて、新聞を読めば時間とかいろいろ対処方法とか、すぐ一目瞭然でありますけれども、そのままの話をされたなど、きょうは本当に思いましたけれども、しかしそれではできないんですよ、私が答弁を求めたいのは。この23日から今日までの対馬への自衛隊誘致増強をどのような対応をされたかという答弁を求めたかったわけです。糸瀬委員長もその報告されましたけれども、市長も報告されました。それでわかったんですね、誘致増強は。しかしながら、この北朝鮮の問題がありましたから、市長の東京とか長崎県へのどういった対応をとられたものかを、それをお尋ねしたいわけです。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 済みません。私は延坪島のときの私の行動を教えてくれというふうに思ったものですから、あの日の正直なところを伝えた（「どちらも変わらんやないね」と呼ぶ者あり）その後の行動ということですね、今日までの。正直言いまして、この問題につきましては、4月にですね……（発言する者あり）

○議長（作元 義文君） 私語は慎んでください。

○市長（財部 能成君） 4月に哨戒艦の爆破の事故が、やはり同じ海域でありました。そのときに、私どもの対馬の陸自・海自、それから警察の方々、それから入国管理事務所の方々と有事の際のお話等を皆さんでそれぞれ個別にさせていただいたところであります。これらについては、国の対マニュアルというのがきちんとできていないのが現状だというふうに聞いております。

で、今回、この11月23日以降の話につきましては、直接防衛省なんかには話を持っては行っておりません。実際問題、防衛省のほうも緊急事態ということで、いろんな動きがあつておりましたので話はしておりません。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） 時間がありませんので、ばりばりやりたいと思います。

市長の行政報告を読ませていただきまして、この中におきまして、一個連隊規模の自衛隊増員が入っておるわけですね、最初の分に。一個連隊規模の自衛隊増員には、どのような意味なのかをちょっと説明を願いたいと思います。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） この一個連隊、それから航空部隊、それから自衛艦接岸のできる可能な岸壁という3項目に絞っていただいたのは、特別委員会のほうでお絞りをされたわけでありまして、私もそういう方向でいいんじゃないですかという同意をして、一緒に要望活動をしたところでありますので、どういう意味かと言われても、私もちょっと答えづらいなというふうなのが正

直あります。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） それではちょっと私から尋ねます。

要するに、一個連隊規模というのは、陸上自衛隊を指して一個連隊1,000人規模を指してあるものか、陸・海・空でそういった委員長報告の国境離島にふさわしい自衛隊員の増員を目指したのか、ちょっとニュアンスのとり方があるものですから、そこら辺を尋ねたいんです。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 私は陸自の一個連隊1,000人というふうに自分自身は解釈をしておりますが、特別委員会のほうが、もしかしてそこまでの打ち合わせをしたか、今ちょっと記憶が戻らんのですが、私は陸自の一個連隊という考え方をしておりました。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） ちょっとその辺が正直なところ委員長ととり方が変わっておるようにあります。だから尋ねたわけですけどね。

やっぱり、できましたらトップが常に市長話をされるわけですから、大事なことでありますので、この辺はしっかりとチームワークでやっていただきたいと思います。

委員長の話によりますと、やはり陸・海・空に合わせて、ふさわしい自衛隊の増強は防衛省が決めることであって、我々が云々かんぬんは言えませんのでということでございます。私もそうでないかなと思います。その辺どうですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 私の解釈と特別委員会の解釈が齟齬があったということで、それは申しわけないと思いますが、私はもっぱら一個連隊といったときに、陸自を頭の中では想定をした次第です。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） 1,000人規模の陸上自衛隊が、とにかく上のほうは手薄であると私は思っております。上の方にそういった一個連隊1,000人規模でも来ていただけるなら、本当に最高の国境防衛になると思っておりますので、いずれにいたしましても、自衛隊増員を進めていただきたいと思っております。

で、要するに、市長がこの約十何日間の間、何もされなかったということでございますけれども、11月25日です。県は24日、海上自衛隊の潜水艦部隊を佐世保市内に配備するよう防衛省に要望し、25日に藤井健副知事が、末竹健志副市長とともに防衛副大臣に面会したとあります。このようなときに対馬の自衛隊状況に対しては、県は市長どの程度わかっておるわけでしょうか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） どの程度わかってあるかと言われても、ちょっと私もわかりかねますが、この動きというのは、十分に私どもも伝えてきているわけございまして、きょうも議会の傍聴にはちゃんと地方局のほうからも来てありますから、その方向性というのは逐次、県庁のラインの中で流れていっていると、いつもですね、というふうに思っております。で、ここでも特別委員会の報告もあり、そして皆さんからの自衛隊増強に関するいろんな動きというのは、県のほうも十分に把握はされておるはずですよ。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） いや、市長はそう思っているだけで、市長自体はその危機管理防災課長とか、そういった辺は一回でもそしたら話をされたんですか。その中村知事とか話をされたんですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 記憶が正直言って戻りませんが、知事に、出県した際に、あわせてこの問題については知事にお話をさせていただいているわけです。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） 早くそれを話していただければよかったです。

防衛大綱は、今月の、もうあと二、三日ですけども、10日に閣議決定がなされるという報道があっております。そしてこの年末に発表されるということでございますけれども、やっぱり日本にお金がないところから自衛隊削減、特に陸上自衛隊の定員が削減されるかもわからないという新聞等で読んでおります。このようなときに、本当に今佐世保にもその潜水艦基地が陳情をされてあるように、市長、議会も大事ですけど、本当に今こそ委員長とでも陳情に行ってやるべきやとですよ。

12月3日の、これ毎日新聞ですね、「76年の18万人から、大綱見直しのたびに定員が削られてきた経緯もあり、部隊のやりくりで何とかできる限界を超えている」。陸上自衛隊幹部は反発をいたしております。頼みの綱は駐屯地などがある地方自治体の陳情、2日には、これは12月2日のことです。12月2日には、部隊がいなくなれば、地元経済への影響は大きい。北海道の全市町村でつくる協議会が体制維持を政府に申し入れた。防衛省は、既存の基地は当面維持する方針だが、同省幹部は、どう考慮しても陸上自衛隊定員は減らすしかないと言っております。

こういったときに、頼みの綱は駐屯地などがある地方自治体の陳情とまで書かれてあります。今こそ陳情すべき対馬を訴えるチャンスじゃないんでしょうか。どうですか。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） その陳情活動については、要請活動は今までずっと、もう何度となくやってきておりますし、そしてこの中期防の方向性が出たときに、南西防衛ラインのことがきちんとうたわれました。この南西防衛ラインは、沖縄からこの韓半島までをつなぐラインを指しております、南西防衛ラインの一番北端に対馬が位置するというふうに私どもは今まで防衛省でも聞かされてきておりますし、ここに自衛隊を動的戦力でしたか、動的な配置をしていくんだというふうな方向性が今出ておりますけども、その中に私ども対馬が入っているんだというふうに私は理解をしておりますし、この件以外でも国境離島新法、要するに防人の島新法のことでも自民党さん、民主党さん、すべてにわたってお願いをし、それぞれ自民党のほうについては議員立法で出すということで法文まででき上がっている状況でした。そのあたりの部分は十分に今回の中期防に反映していただける機運が盛り上がっているなというふうに私はもう理解をしておりますので、今この時期に行くまでもないと、もう、いうふうな解釈を自分としてはしております。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

○議員（20番 中原 康博君） そうですね。ちょっとやっぱね、私は残念ですね。やっぱりこの11月23日の問題がなかったならば、市長は10月にも陳情してありますので、それでよかったかなと思いますけれども、特に今この対馬を訴えるときであると思いますよ。特に上のほうには自衛隊員は海栗島に160名の隊員がおります。海上保安部もありますし、海上自衛隊もわざわざおられます。対馬で約720名の自衛隊員が頑張っていておられます。5日からきょうまで、陸上自衛隊320名の隊員が行軍をされたり、訓練をされたり、一生懸命頑張っておられますけれども、この720名の隊員では、とてもじゃないけど、対馬に難民が押し寄せたり、有事の際には間に合いません。本当に市長、今だと思うんですよ、陳情するのは。先ほどの新聞にもありますように。11月23日がなかったならば、それでよかったかもわかりませんよ。このままでいいでしょうか。防衛計画大綱に入らなかったときはどのように思われます。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 中期防に入らなかった場合というお話が出ましたが、私は正直言いました、中期防、膨大な書類を見たことがありませんけれども、先ほど言いますように、南西防衛ラインという一つの概念を出して、あそこに何人とかいうことは決してうたうことはないと思います。それは国家機密に関することですから、対馬の名前が出なかったらどうするんだと言われても、南西防衛ラインという物事の捉え方の中に対馬が北端で入っているということを皆さんが、防衛省は言っているわけですから私はそこを動的な配置をしながらやっていくんだというふうなお話をその方向で決まっているということを知っているんですから、それを信じる以外には私はないと思っておりますけど、どうしろと言われてもちょっと難しい問題だなと。

○議長（作元 義文君） 20番、中原康博君。

午後0時00分休憩

.....

午後0時02分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

ただいまの中原議員の一般質問の中で、もし調査して法に触れるような部分があれば議長の権限で削除することにします。よろしいですか。（発言する者あり）はい。関係部分は削除します。

以上で、本日の市政一般質問を終わります。

○議長（作元 義文君） 本日はこれで散会とします。お疲れさまでした。

午後0時03分散会
